

ビオトープ・イタンキ通信 第11号

NPO法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭 2018年5月1日

NPO法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭では「ホテル再び、人にやさしい街・室蘭」を合い言葉にビオトープ作りを進めています。原始のままの海岸線、鳴り砂の浜に続く草原の一角に、今は失われてしまった湿地を復元し、子供たちが生き物と触れ合える場の再生を目指しています。

「NPO法人ビオトープ・イタンキin 室蘭」は、イタンキ浜近くの潮見公園の一角に、失われた湿地を復元する活動を続けて昨年15周年を迎えました。小さな実験池と苗床づくりから始まったビオトープ・イタンキの活動も、公に認められ、市をはじめ内外の団体の助成を受けて、2011年には、文字どおり『獲物のあるビオトープ』の造成が完了し、室蘭市ビオトープ憲章が制定されました。

自然観察や体験学習に来る小学校や保育園も少しずつ増え、夏のホテル観察会も定着してきました。はじめは、しり込みして、虫や魚に触れられなかった子供が、いつのまにか泥だらけになって歓声をあげ、時間を忘れていた姿を多く見ることができました。

未来を担う子供たちが、身近な小さな生き物たちと触れ合い、故郷の豊かな自然を感じる機会を作ることは、大人にとって大切なことと思わされます。

このビオトープが、もっと活用していただけることを心から願っています。小学校による体験学習、子供会などによる行事の予定にぜひ入れていただきたくご案内申し上げます。また、ご家族での休日のひとときには、自由に足を運んで楽しんでいただければと、重ねてご案内申し上げます。

◆自然体験学習

2017年の自然体験学習は、5月の八丁平小学校6年生による少人数グループによる学習から始まりました。ここ数年の懸案だったドクガの発生もほとんどなく、安心して採集活動ができる環境が戻ってきました。ビオトープの池には、トミヨ、マドジョウ、コオイムシ、ヤゴ、ミズカマキリ、モノアラガイ、タニシなどが住んでいます。池周囲ではアキアカネ、シオカラトンボ、ギンヤンマなどのトンボ類が、そして草地ではモンキチョウ、ヒメウラジャノメ、クジャクチョウなどの蝶類も数多く見られます。網の使い方に慣れていない子供達も多く、先生やNPO法人会員から採集の手ほどきを受けながら必死になって追いかけています。ほとんどの子供達が何かしらの生物を捕まえて観察しています。持ち帰って自宅で飼育を希望する子供達も多く、飼育のための簡単な指導なども行っています。このような貴重な体験を子供のうちに経験できることは、自然科学への関心を育み、自然環境や生物多様性の理解の礎となっていることでしょう。

2017年の自然体験学習参加7団体の内訳

5月26日	八丁平小学校6年生	6人
6月29日	海陽小学校2年生	84人
7月6日	白鳥台小学校3年生	24人
7月11日	ほくと保育園	50人
8月31日	旭ヶ丘小学校4年生	48人
9月8日	大沢小学校4年生	15人
9月15日	旭ヶ丘小学校2年生	39人



自然体験学習の様子

自然体験学習は、予め希望団体の方から申し込みをしていただき、最初に日程調整を行います。体験学習の約1週間前に各学校に出向き、事前学習を行うこともできます。海陽小学校などの比較的近い学校は徒歩でビオトープまで来ますが、遠方の学校では路線バスを利用し東町ターミナルから歩いて来ます。遠足や宿泊研修などの行事を兼ねて自然体験学習を行う学校もあり、また学校に限らず他の団体でも可能です。自然体験学習を希望される場合、お申し込みは電話あるいはメールで大西(連絡先は最終面に記載)までお願いいたします。